

鈴鹿川左岸の台地上にあり、伊勢国分寺跡に隣接する遺跡です。過去の調査では、博物館の南側で河曲郡衙の正倉、博物館駐車場で方位を揃えて建ち並ぶ掘立柱建物群が確認されています。

今回の調査区は、正倉と博物館駐車場の間位置します。調査の結果、掘立柱建物2棟分の柱穴と、中世の地割溝を確認しました。遺物は、国分寺に由来する瓦類の他、中世の山茶碗や白磁片などが出土しています。



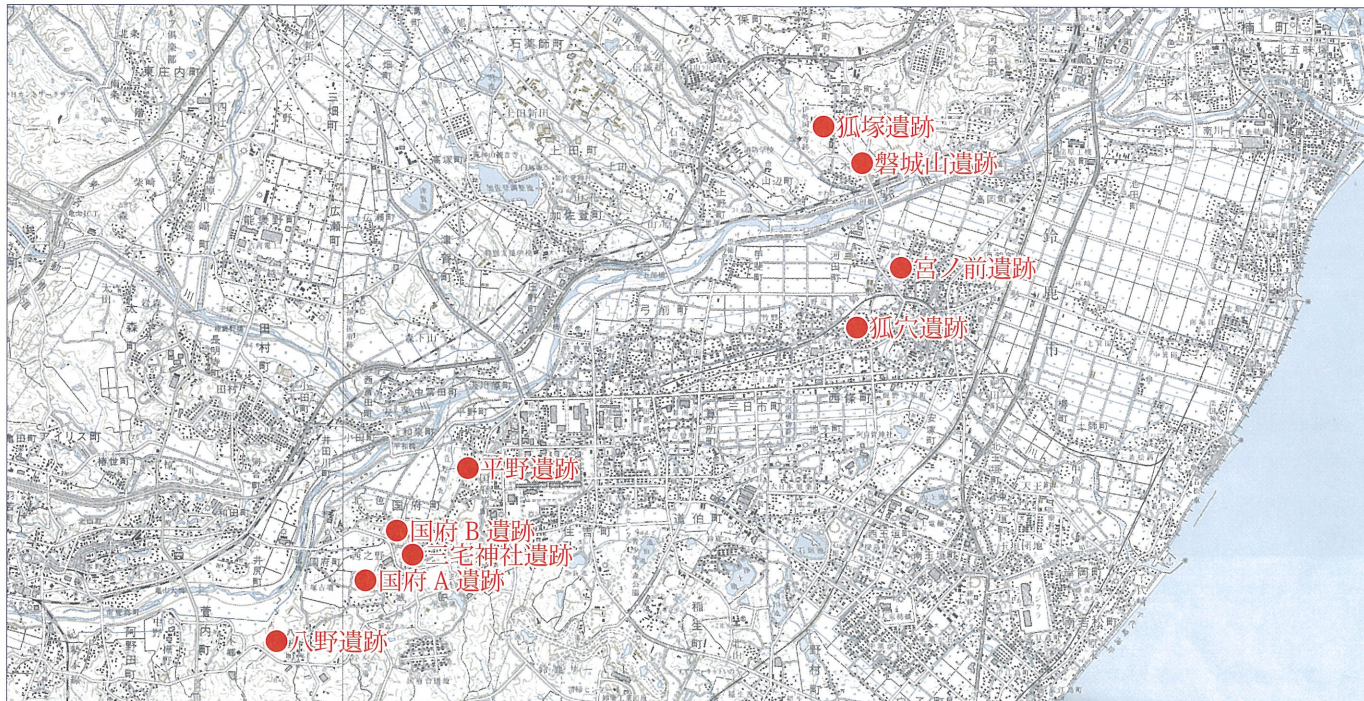
遺構検出状況 完掘状況
 Point 土の色の違いを見ながら発掘調査をします。左が表土を除去した時点の写真、右が発掘調査の最終段階のものです。左の写真で土の色が異なる部分が右のものでは穴になっていることがわかります。



遺構検出状況

鈴鹿川右岸の低位段丘上中ほどに位置する遺跡です。早くから市街地化が進んだ地域にあるため、この付近の遺跡はほとんど知られていませんでした。しかし平成8年度に、今回の調査区の西100mあたりで、横穴式石室を持つ円墳1基や鎌倉時代の掘立柱建物1棟が確認されたことにより、この遺跡の存在が明らかになりました。

今回の調査地は、先に確認された狐穴1号墳に隣接しているため、同様の小型古墳が存在する可能性も想定していたのですが、古墳時代の遺構は確認されず、中世の掘立柱建物のものと考えられるピット群が多数検出されました。付近には中世の集落が広がっていたものと考えられます。



発掘調査遺跡位置図 (1:100,000)
 この地図は国土地理院発行の5万分の1地形図「四日市」「亀山」を使用したものである。

関連講演

スライド説明会「宮ノ前遺跡 (第2次)・磐城山遺跡 (第6次)」 講師：当館職員 4月19日 (土) 午後2時から
 「八野遺跡 (第1次)・平野遺跡 (第4次)」 講師：当館職員 5月18日 (日) 午後2時から

鈴鹿市考古博物館
 Suzuka Municipal Museum of Archaeology

〒513-0013 鈴鹿市国分町224番地 TEL059-374-1994 FAX059-374-0986
 URL <http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/museum/> E-mail kokohakubutsukan@city.suzuka.lg.jp

速報展

発掘された鈴鹿 2013

2014年3月21日 (金)～6月22日 (日)



豪族居館の区画溝か！？

—多量の土器を含む大溝発見！—

鈴鹿川右岸の低地部、旧神戸中学校からほど近い十宮の住宅街の西端に位置します。宅地造成に伴い新設される道路部分465㎡を調査しました。

今回の調査で確認された8条の溝のうち、大溝SR0201は、東西に約65m、幅4～5m、検出面からの深さが0.5～0.9mもある大きなもので、両端が南に向かって曲がっています。南側のほとんどが調査区外であるため詳細は不明ですが、豪族居館を区画する溝である可能性が考えられます。この溝からは5世紀～6世紀の遺物が出土しており、古墳時代後期に掘られたものであると考えられます。



大溝からは大量の土器が出土

河曲地区の古代の豪族としては大鹿氏が知られており、鈴鹿川左岸の大鹿山1号墳や、伊勢国分寺に先立つ白鳳寺院の南浦廃寺などにその存在の影をうかがい知ることができます。彼らの本拠地はどこであったのか？もしかすると、この遺跡がその答えを知っているのかもしれない。



コンテナに詰まった土器



出土品が入ったコンテナ (写真に写っているのは約2割)



土師器甕

新たに3つの古墳発見！

鈴鹿川中流域の右岸段丘上に位置します。国府町を中心とする右岸段丘上の地域は、鈴鹿市の中でも古くからの人の営みが確認される地域です。調査範囲には、墳丘は失われていますが八野8・9号墳が存在したことが記録に残っています。また、奈良時代の寺「八野廃寺」の存在が想定されています。

調査の結果、古墳周溝が6条確認されました。しかし、墳丘はすでに削平されており、主体部も検出されませんでした。このうち3つは周知の古墳、八野8・9・11号墳の周溝と考えられますが、残り3つは今まで存在が知られていなかった古墳のものであることが判明し、それぞれを八野26号墳・八野27号墳・八野28号墳として新たに遺跡の登録をしました。いずれの周溝からも6世紀代の遺物が確認されました。横穴式石室が導入される以前の初期群集墳と考えられます。

また、今回の調査では、奈良時代の瓦が多数出土しています。明確な遺構は確認されていませんが、付近に想定されている八野廃寺との関連を感じさせます。



八野古墳群



八野26号墳周溝 遺物出土状況



平瓦出土

平野遺跡は、鈴鹿川右岸の鈴鹿川に沿って延びる舌状台地の中央部に所在します。これまでの調査では中世の集落と道路状遺構、弥生時代の方形周溝群集墳が確認されています。また、隣接する富士遺跡では奈良・平安時代の集落が確認されており、金属製品の鑄造がおこなわれ、奈良時代後期以降の伊勢国府との関連が推定されています。

今回の調査では3つの調査区を設定しました。このうち西側の区画では、奈良時代から平安時代にかけての竪穴住居が13棟以上集中して確認されました。3棟の住居が重複しているため、少なくとも3時期の変遷が想定できます。

また、南東の区画では、掘立柱塀で隔てられた平安時代に埋没した素掘りの井戸が確認され、北東の区画では、掘立柱建物が2棟見つかっています。竪穴住居、掘立柱建物、井戸などで構成された集落跡と考えられます。



かまど



竪穴住居検出状況 (土の色が黒く、四角い部分が竪穴住居)



竪穴住居

周知の遺跡の東端にあたる24㎡の小さな調査区です。土坑がひとつと、多くのピットが確認され、奈良時代から中世にかけての遺物が出土しました。

ある程度の遺構が確認されているため、周知の範囲より東にも遺構が広がっている可能性があります。



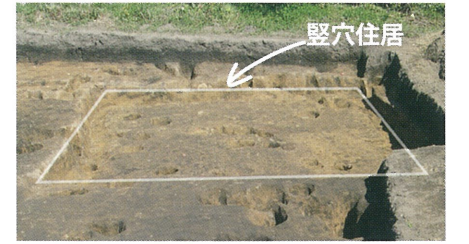
作業風景



調査区全景 (→西)

鈴鹿川右岸の段丘の比較的平坦な部分に位置します。過去の調査において、奈良時代前後の竪穴住居1棟、土坑などが確認されており、周辺には古代の集落が広がっていると考えられます。

調査の結果、新たに竪穴住居3棟、土坑2基・溝3条などが確認されました。竪穴住居のうち1棟は一边4mほどの正方形に近い形で、北東隅の貯蔵穴と考えられる土坑からは須恵器が出土しています。



竪穴住居 (→北)

前出の国府A遺跡の北側に位置する遺跡で、古墳時代の埋蔵文化財包蔵地として知られています。平成24年に範囲確認調査を行い、本調査が必要と判断された箇所が今回の調査対象となっています。

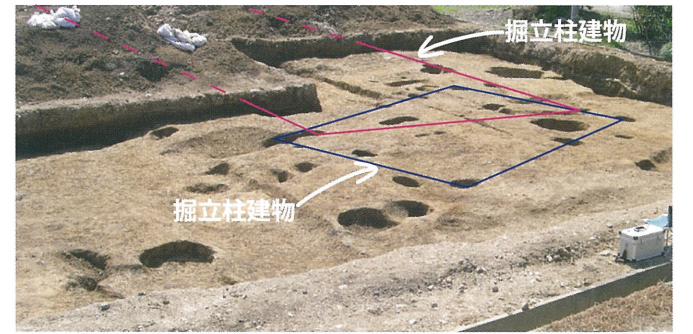
今回の発掘調査の結果、弥生時代から鎌倉時代にかけての遺構・遺物が確認され、集落があったと考えられます。しかし、調査区全体が木の根による攪乱を受けており、建物跡などといった明確に特定できる遺構は確認できませんでした。



1区東西トレンチ (→東)

9月11日～9月30日 個人住宅建設に伴う緊急調査

鈴鹿川右岸の河岸段丘上に立地する遺跡です。後期伊勢国府の推定地の範囲内にあり、今回の調査でも関連する遺構の確認が期待されました。今回の調査で確認された遺構のうち、掘立柱建物の1棟(右写真にピンク色で示した)は、時期の特定ができなかったものの、正方位に近い主軸を持っていることから、国府に関連するものである可能性があります。



調査区全景

さらに多くの竪穴住居確認！！

鈴鹿川左岸の高位段丘上に立地する弥生時代～中世にかけての遺跡です。これまでに8,000㎡近くが調査され100棟以上の竪穴住居が確認されています。今年度も昨年の調査地に隣接する部分で300㎡以上をすでに調査しています。昨年の調査と同じく多くの竪穴住居が同じ場所で重なり合うように検出されていますが、古墳時代の住居が多くみつかった昨年の調査区とは異なり、ほとんどが弥生時代後期に属します。いくつかの竪穴住居では、まとめて土器が出土しています。

また、中世墓が2基確認されています。同じ尾根上に所在する中世の城館、木田城との関連が考えられます。



竪穴住居の土器出土状況



竪穴住居の壁際から出土した土器



中世墓出土の茶釜